

今回の特集は、
編集長自らが「会いたい」と思っていた
高知のオトコたちに登場してもらった。
日曜市で、オーガニックマーケットで、
食やアートの野外イベントで、
自らの仕事の将来を切り拓いていく
「さががけ」のようなオトコたち。
その先はどこへ向かうのか？興味はつきない。

40 36 08 04
SAIL atelier / swimmy 山崎早太さん
はなればなれ珈琲 鈴木野歩さん
まるふく農園 楠瀬健太さん
パール・バップオーネ 青野摩周さん

コウチの気になるお店 × 気になる男たち
あおぞらのある風景。



KIKAN KOCHI

季刊高知 Think & Action Magazine, Kochi, Spring, 2014 No.52



定価 400円
(本体370円)

Cover Art by Keiko Shibata



特集

コウチの気になるお店×気になる男たち

あおぞらのある風景。

ジャイアント★インタビュー

フィギュアイラストレーター

デハラユキノリさん

四万十川自転車旅

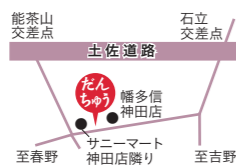
日本で一番暑い町でみつけた景色



粋人が集う店

ジャズが流れるオトナの酒場は
料理歴40年のプロが腕をふるう

食菜 だんちゅう



〒780-8040
高知県高知市神田816-1 泉川ビル
TEL. 088-834-0230
営業時間/午後5時30分~
定休日/水曜日



ホームセンターなどでもハーブ苗木の品揃えは充実してきたが、スタッフは専門知識がないので具体的な質問に説明ができないことが多い。日曜市ではたくさん聞いて欲しいという。

農薬も肥料も使わない。
ハーブ専門農家の若者は
観賞用、食用のハーブ苗木を広げていった。

楠瀬さんの実家「まるふく農園」は親の代から食用のものを中心にしたフレッシュハーブを高知県内の青果店や飲食店等に卸している。またハーブを使う料理教室をはじめ、クッキーや、ジャム、ハーブティ、ペーストなどをつくり店頭などで販売。最近では金曜だけ国産小麦と天然酵母、季節のハーブを使ったパンもある。そういった環境だからといって、家を継いだというプレッシャーはあまりなかったという。「焼き物など伝統工芸の家を継ぐという訳ではなく、農家の家はどこも一緒だと思いますが、時代と共に作る作物

農家は時代とともに
つくる作物も、
経営の仕方も変わっていく。



えを基に土を活性化させ、農薬も肥料も使わずに育てるハーブ専門店「まるふく農園」の楠瀬健太さん。日曜市に出店するようになって5年が経つ。今でこそホームセンターなどで鑑賞用のハーブ苗木が販売されているが、日曜市に出店したころは稀な存在で、ハーブに興味を持つ人が集まり会話に花が咲く。楠瀬さんは「ハーブに関しては日曜市で聞いてもらったら、ひと通りのことは答えられるし、わからないことがあれば宿題として持ち帰り、後日お伝えしています」と誠実に話す。自らが育てたハーブ苗木のことを言葉で伝え、評価を受け、ハーブのこと全般の相談を聞く。こうした店先でのダイレクトなやり取りを大事にしている。



コウチの気になるお店 × 気になる男たち
あおぞらのある風景。

01 日曜市 × まるふく農園 楠瀬健太さん

日曜市で感触をつかみながら
新しい展開にチャレンジ。

高知市の追手筋で毎日曜に開催される「日曜市」は、400以上の露店がずらっと立ち並び、旬の野菜や果物、花木、食へ物、雑貨などを販売している、日本一の青空マーケット。自分の畑で採れた野菜を出すのがスタイルなので、ほうれん草一つとっても、町と山の麓と中腹の畑では店頭に並ぶ時期が少し

ずつズレていく。露地栽培ならではの季節の匂いを感じながら散策するのは実に楽しい。そうやって歩いていくと、追手門近くの信号機あたりに、ハーブの苗木が路上にずらっと並んでいるお店があった。その店先に立つのは、食用から観賞用ハーブなどを、炭素循環農法の考



2014 SPRING

ハズム、ハズム、春。

春はスポーツミックス。

11:00am ~ 10:00pm 年中無休

JEANS FACTORY

卸団地本店：phone 088-861-5100
 土佐道路店：phone 088-843-8111
 高松店：phone 087-867-0222
 屋島店：phone 087-843-9222
 松山店：phone 089-989-5222
 岡山店：phone 086-281-5311
 広島沼田店：phone 082-849-2611
 広島宇品店：phone 082-250-7171



高知に帰ってくるまでは、ハーブティやアロマテラピーに使うドライハーブを扱う会社に就職していた楠瀬さん。技術的なことはすべて高知に帰ってきてから。地元福井にある「花卉研究会」で勉強させてもらったことが今の財産になっている。



楠瀬さんのハーブ園には、3月取材時に花があちこちで咲いていた。花と香りの両方を楽しめるハーブブーケの注文も受け付けている。



まるふく農園
 高知市福井町512-1
 TEL. 088-875-3826
 営/11:00~17:00
 日曜日は日曜市出店のため、お店はお休み
<http://www.marufuku.noen.biz>



3か月お世話をして、環境が悪ければ3日でダメになるデリケートさがハーブ。「人間も水の中では3分も持たないのと同じです」と例えられ、へんに納得してしまっ。



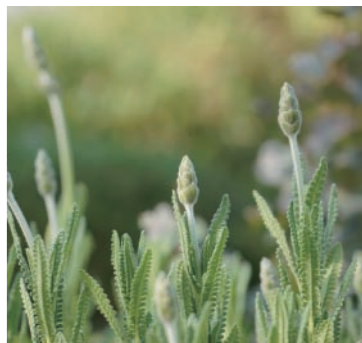
まるふく農園のお店には、ハーブを使ったクッキーや、ジャム、ハーブティなど加工品の販売をしている。また金曜には国産小麦と天然酵母でつくるパンもある。



も変わりますし、経営の仕方も変わります。東京から帰ってきて最初は親の仕事を手伝いましたが、広げていかないと将来が見えないと思いました。父親が食用のフレッシュハーブなので、自分は苗物や園芸を学んでそのジャンルを広げていき、仕事をつくっていった感じです。

苗の育て方から学んでいった楠瀬さんは「最初は失敗するためにやってい」と笑いながら当時を振り返る。「今でも失敗はしますが、例えばハーブの育て方から学んでいった楠瀬さんは「最初は失敗するためにやってい」と笑いながら当時を振り返る。

ブの葉が虫に食べられることに対して、最初は虫のせいだと思いましたが、苗木が病気になった時も原因を探して見えてくる経験を重ねることに。虫が食べる植物は、それ自体が弱っているからなんです。完全に健康な植物には自分を守るチカラがあるので、虫は食べないし病気もこない。特にハーブは虫除けのチカラを持っているので、そういうことになれば、単純に僕の育て方が悪いんだと納得しました。」

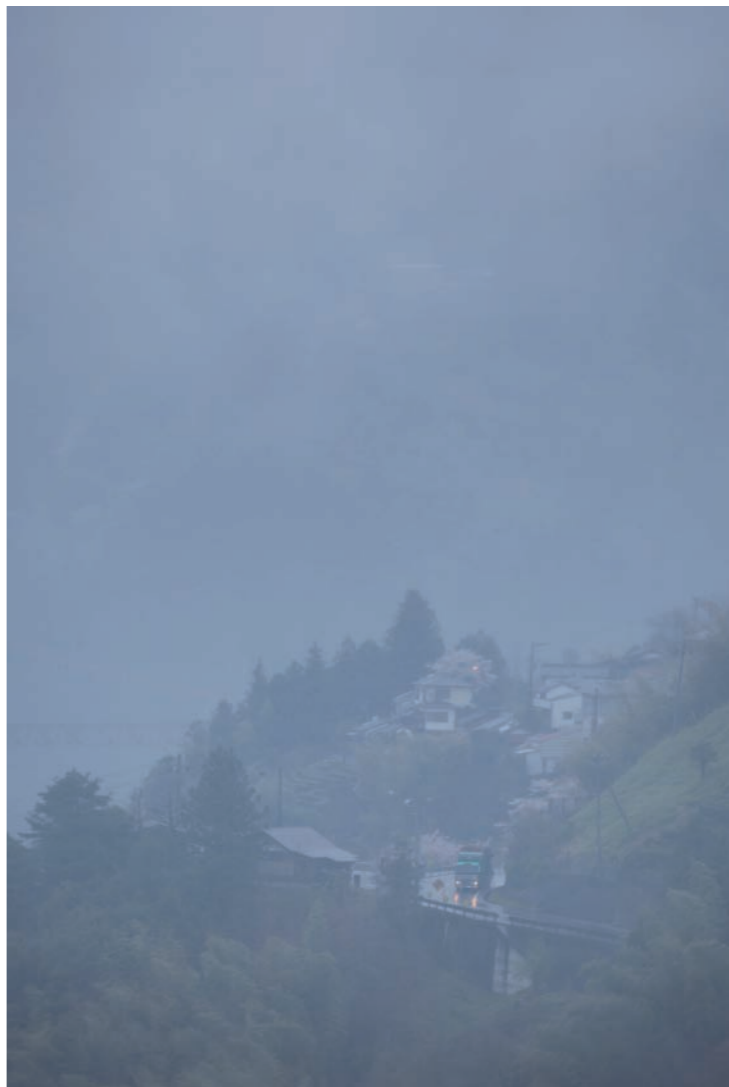


ハーブの苗木、造園、ハーブブーケ、それを中国まで届けに行く。

土と水分量、日照、風通し、水はけの良い場所と悪い場所。ハーブそれぞれに適した環境があり、それを理解して自然に逆らわない植え方を模索している楠瀬さん。今は年間を通じて300品種ぐらい育てている。ハーブの苗木、造園、花と香りの両方を楽しめるハーブブーケなど、着実に活動の幅を広げている。そして次のステップとして、同じ福井町にある花壇苗の生産や観葉植物のレンタルをしている会社と協力して、生産体制を整え、営業力を養い、中四国までハーブの苗木を届けたいという。

時代によってつくくるものが変わる、経営も変わる。そして自分で仕事を切り拓いていく。農家の奥深さと、四国でも珍しいハーブ専門農家が高知市にあることに誇りを感じる取材だった。

「春朧」



一面の桜を求めてここまで来た
 雨雲が山肌を隠し
 いつもとは違う風景
 かすかに聞こえる車の音
 望遠すると、国道がわずかに見える
 闇雲にシャッターを押す
 なんともなく写っている。
 ファインダーはこれほど見えていない
 シャッターを押さないと見られない風景
 至福の雨

中島健藏

プロフィール

1959年高知市生まれ
 大阪芸術大学・写真学科卒業
 旧日本広告写真協会A.P.A.会員 / 日本写真芸術学会会員
 企業・市町村の概要・観光ポスターや
 各種広告関連の写真撮影などを手がける。
 最近は写真教室・海外撮影セミナーなどの講師を務めている。
 高知市三園町在住
http://blogs.yahoo.co.jp/japan_kenzo

撮影場所・仁淀川町高瀬



STAFF

Publisher yoshihiro nonami / cricket
 junichi kusunoki / koubun
 Advertising takayuki mimoto / koubun
 Editor in Chief yoshihiro nonami / cricket
 Editor sachihiko oouchi / cricket
 Design yumi ito / cricket
 Cover hiroschi kawauchi / plane
 Cover Art keiko shibata
 Photographer mikiya kadota

ADVERTISING

ひろせクリニック / JEANS FACTORY /
 だんちゅう / 近森病院 / 禿法師 /
 特選呉服いしはら

CONTENTS

巻頭・センター特集

03・35

コウチの気になるお店 × 気になる男たち
あおぞらのある風景。

14 Giant Interview

フィギュアイラストレーター
デハラユキノリさん

67 四万十自転車旅

日本で一番暑い町でみつけた景色

REGULARS

- 12 野菜のチカラ：BIOキッチン tuturu 田中直見
- 19 ブックホリックの書棚から：カワウチヒロシ
- 20 高知の素敵な、大人の女性。
- 21 高知版 粋なオトコ。
- 22 ミセスメープルの突撃近場レポート：三本桂子
- 23 土佐の雑記帖：池田あけみ
- 24 Radio & Magazine
- 26 ショートショート 新デビルの仕業 in 季刊高知：目代雄一
- 27 につけい「ハラ」商店：原孝二
- 28 風聞異説：松岡周平
- 30 野いちごの場所で：大崎博澄
- 32 猛者のつぶやき：依光隆明
- 34 還暦男の断章：大野充彦
- 44 高知の音レポート：高知コンサートグループ
- 49 独走痛：タイケヒデミ
- 50 思い出がかりのお仕事：松田雅子
- 51 遠きにありて：大澤重人
- 52 まちづくり、ひとづくり：島崎一彦
- 53 社会を変える市民のチカラ：藤島和典
- 54 高知ARTパーソンズ：松本教仁
- 55 高知に住んでいます！：町田暁郎
- 56 SKILL UP & EVENT NEWS
- 60 読者の庭先・アユココ・編集後記・読者プレゼント
- 72 考え方をデザインする
 ～47番目の地に住むオトコからの伝言～：梅原真
- 74 石原文子が語る「高知のきもの女性」
- 75 「カメラ屋ケンちゃん」気まぐれ写真日記：中島健藏
 (敬称略)